

市民フロンティア



URL <http://www.cskobe.com/>

E-MAIL info@cskobe.com

発行人：中村順子 編集人：岡本雅士

2013 年度 第 15 期 (第 25 回)

通常総会を開催



2013 年度通常総会

5 月 26 日 (日) 午前 10 時～12 時、2013 年度 (第 25 回) の通常総会が、C S 神戸事務所にて開催されました。

出席者は、足立勝、今田忠、岡本仁宏、

金芳外城雄、国枝哲男、小室邦夫、立田英雄、當間克雄、中村厚子、星野裕志、安元邦夫、坂本登、中村順子の各正会員と佐藤友美子理事、(書面による出席は、荒巻順一、佐野末夫、松下忠義の各正会員) の計 16 名で総会が成立し審議の結果、以下の両議案が可決・承認されました。

【決議事項】

1. 2012 年度活動報告及び決算報告・監査報告の件

『2012 年度は 15 周年記念事業の仕上げと、C S 神戸の第 2 創設期として次世代固めに注力してきました。15 周年記念事業は、2010 年度 (準備期)、2011 年度 (実践期)、2012 年度 (フォローアップ期) と発展させながら推進してきました。その中で本年度は「社会貢献の可視化」を中心テーマとし、すべての活動が身近な方々から頼りにされ、見えやすく、わかりやすくすることに取組んできました。事務所への来場者・相談者は増加傾向にあり、各事業の目標はほぼ達成でき、またボランティアの参加も増えたことは、可視化が進行している結果と思っています。

事業は、26 事業を実施し、新規事業は、当初予定していた「介護サービスの地域密着型外部評価事業」「ハンズオン事業」「CSR ネットワーク事業」の 3 本に加えて、「神戸市 NPO 認証支援事業」「コミュニティビジネス事例集作成事業」「就労準備セミナー事業」「HAT 神戸地域活性化プロジェクト事業」の計 7 事業を行いました。「ハンズオン事業」は三菱重工、「HAT 神戸地域活性化プロジェクト事業」は関西都市居住サービス、という企業連携の下で行った課題解決型事業であり、一つの NPO の活動モデルとなるものです。

さらに「CSR ネットワーク事業」では、企業と NPO とのさらなる連携の道筋をつけることができ、「介護サービスの地域密着型外部評価事業」においては、他事業者にはない独自の取組みで着実に評価対象事業所を開拓しました。

また 2011 年から 2 年連続で受託した兵庫県地域づくり活動支援事業の「NPO スクール」「プロボノ」「つなごう神戸」も成果を上げて終了し、さらにブラッシュアップした事業として 2013 年度も継続していく予定です。

既存事業では、「ワラビー事業 (生きがいごとサポートセンター)」が、「神戸市 NPO 認証支援事業」とともに就業・起業において相談者から厚い支持を得ることができ、数多くの研修事業では、地域貢献に関心を持つ多くの人材を養成しました。また「東灘区民センター小ホール」では東北震災支援のイベントを開催し、「区民カレッジ」は多くの方々の参加の下に講座回数を重ねています。一方「JR 住吉駅前駐輪場」では、2013 年度からの 4 年間 C S 神戸としては第 3 期となる事業受託が決まりました。東北震災では、さわやか福祉財団と共に岩手県大槌町の支援を続けています。

認定 NPO はまだ審査中ですが、2012 年度も認定要件である賛助会員数 100 名をクリアすることができました。(130 名、団体) と、中村理事長から報告がありました。

会計面では、総収入は 70,098 千円、経常増減額は 1,274 千円の黒字となり、監事より、5 月 16 日に監査を行った結果、適切に処理されていることを確認した旨の報告がなされました。

2. 2013 年度活動方針および予算の件

2013 年度も引き続き「社会貢献の可視化」への取組みを強化します。獲得した個人の専門性をさらに伸ばし、知識・ノウハウ・情報の共有化を通じて内部業務の可視化を進めていきます。現段階での事業数は 22 事業で、総予算は 69,340 千円です。

1. 組織と個人について

- ・認定 NPO の取得に向けて行政との協議を継続するとともに、賛助会員 150 名の獲得を目指します。
- ・ボランティアの養成に努め、外部の人材と協働することで可視化を推進します。

2. 事業展開について

- ・すべての事業を相互に関係づけて、日常業務に落とし込むことに注力します。
- ・自立と共生を実現できる人材の養成に向けて、総合性を発揮できる仕組みづくりに取組みます。
- ・現時点の新規事業は「生きがいごとサポートセンター 全県展開事業」「介護予防・日常生活支援に関する神戸市での政策化研究事業」ですが、協議中・検討中の案件の事業化に努めます。
- ・地域に関する調査・情報収集を行い、事業の起点となるニーズの把握を行います。

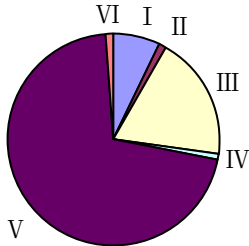
2012年度決算報告

(2012/4/1~2013/3/31)



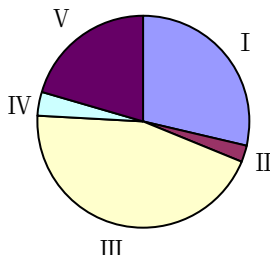
<収入 70,098 千円>

- I 会費・寄付金 (7%)
- II 市民活動収入 (1%)
- III 公的補助金 (19%)
- IV 民間助成金 (1%)
- V 事業収入 (71%)
- VI その他 (1%)



<支出 68,824 千円>

- I 市民活動推進事業 (29%)
- II ネットワーク事業 (2%)
- III まちづくり推進事業 (45%)
- IV 福祉推進事業 (4%)
- V 一般管理費 (20%)



※事業内容

市民活動推進事業

生きサポ、神戸市NPO認証支援、社会貢献塾、CB講座、NPOスクール、プロボノ、ハンズオン、就労準備セミナー、視察研修

ネットワーク事業

つなごう神戸、データマップ、全県キャンパス、HAT神戸地域活性化、東日本震災支援、CSR

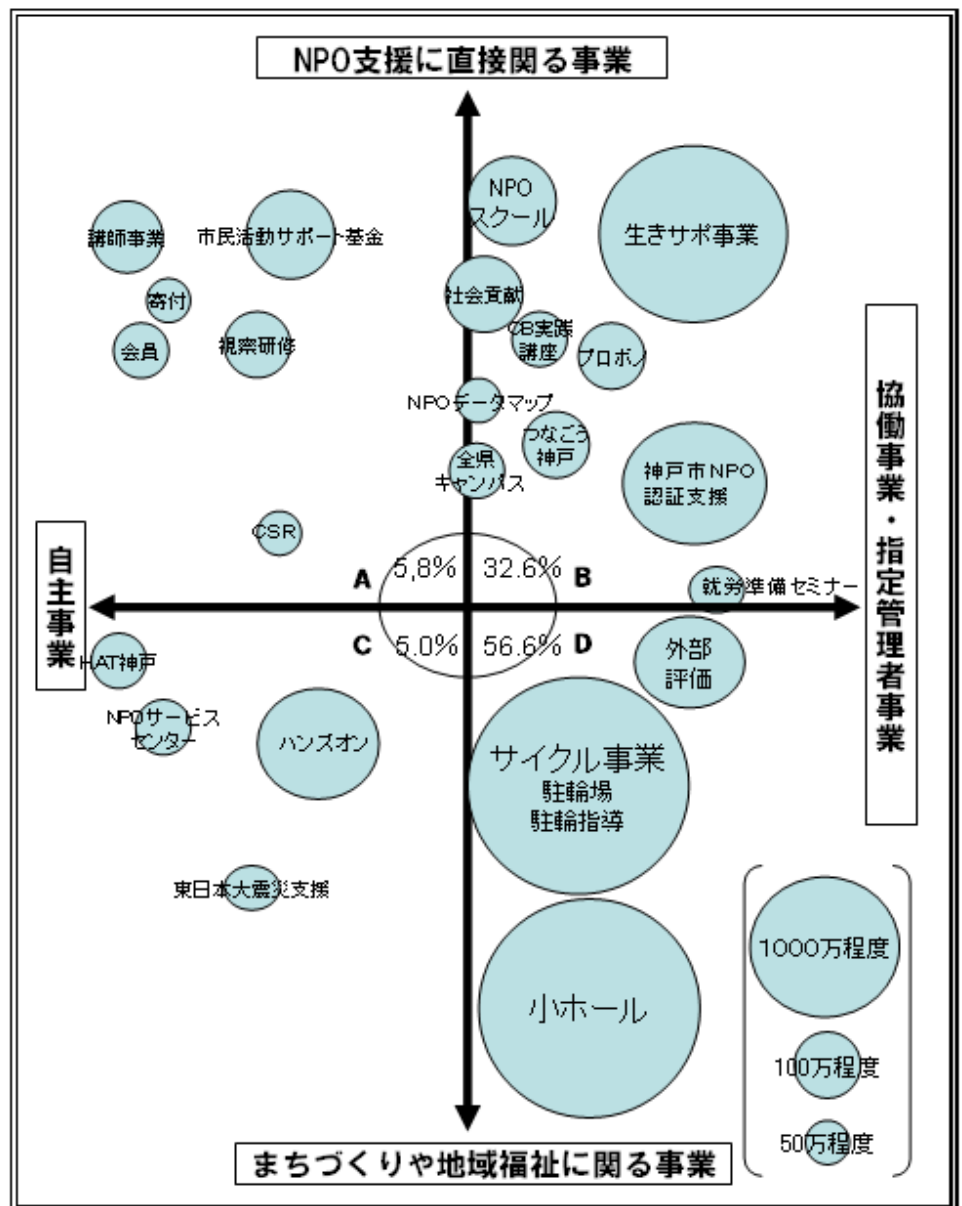
まちづくり推進事業

サイクル（駐輪場・駐輪指導）、小ホール

福祉推進事業

介護サービス外部評価、NPOサービスセンター

CS神戸における事業構成 2012年度決算



2013年度 第1回理事会を開催

2013年度第1回理事会

総会に先立ち、5月26日(日)午前9時30分からCS神戸にて今年度第1回目の理事会が開催されました。足立勝、金芳外城雄、坂本登、佐藤友美子、中村厚子、中村順子の理事全員が出席し、総会に提案する諸議案を審議しました。また、監事の當間克雄氏にも陪席いただき、2012年度の監査報告をしていただきました。(飛田)

2013 年度の新規事業



介護予防総合事業 神戸市での政策化研究事業

「自分らしくこの町で最後まで暮らしたい」

いつまでも暮らし続けることの出来るわが町“神戸”を目指し、介護予防事業に関する公民の既存サービスの実態の把握と見直し、さらに新たな市民参加型サービスの開発の両側面から、第6期介護保険改正期（2015年度）に照準を合わせ、その方向付け及びサービスの体系化を行政と非営利セクターが共同し研究する。おおむね神戸市東部をモデル地域として、約3000人の2次予防対象者が自立した日常生活が送れるよう、1次予防対象者つまり元気高齢者約3万人のパワーが活かせる体系を研究し、計画に反映させる。

（研究会の目的から抜粋）

2000年に介護保険制度が始まって13年が経過します。全国どの地においても介護が必要な時に、状況に応じたサービスが受けられるこのシステムは世界をリードし、超高齢化の社会モデルとなっています。しかし13年の間にサービス総量は倍となり、同時に財政も膨らみ、神戸市では総額1000億円となりました。一方、自立生活が送れる元気高齢者も団塊世代をはじめ増加の一途、より良いサービスと同時に、予防に力点を置き自分らしい生活スタイルを求める「介護予防・日常生活支援総合事業」なる政策が、厚生労働省から示されました。要支援・要介護状態にならないような予防策を市町村で独自に決め、事業として実施するものです。この動きを受け、CS神戸が呼びかけて上記の私的勉強会を立ち上げ、昨年度から検討を初めています。神戸市・神戸社会福祉協議会・コープこうべ・NPO・学識者の少数精鋭による構成メンバーで、今年度からさわか福社財団の事業助成を得て、試行も含めた実践的な研究をすすめることが可能になりました。

どのような施策が効果的なのか、まだ中味を明らかにできる段階ではありませんが、これまでの概念を捉え直すことから新たな提案に結び付けたいと考えています。神戸東部地域での数回のワークショップ、秋にはフォーラムで当事者や関係者から広くご意見をいただく予定です。それらの結果を神戸市に提言し、「自分らしく最後まで暮らせる神戸」の実現に向け、尊厳を基本理念に据えた政策に結び付けたいと考えています。（中村）

生きがいしごとサポートセンター全県展開事業

「丹波市での起業のサポートを行います」

2013年4月より1年間の兵庫県緊急雇用枠で、「生きサポ全県展開事業」がスタートしました。内容は、①生きがいしごとサポートセンターが設置されていない「丹波、但馬、淡路地域」に、現在活動している生きサポ（合計6事業所）が出張相談や講座を実施する、②6つの生きサポで協力して、県内の高齢者や女性を中心となって活動しているコミュニティビジネス(CB)の事例集を作成する、というものです。丹波地域は、CS神戸（生きサポ神戸東）と、シンフォニー（生きサポ阪神南）が受け持ち、CS神戸が丹波市、シンフォニーが篠山市を中心に活動し、互いに連携して事業を進めます。

具体的な活動として、CB実践講座を8～11月で毎月1回開催し、受講者に地域資源を生かしたCB起業プランを考えてもらいます。その中から具体的に事業計画へ落とし込むための個別相談を行い、CB起業へと導いていく計画です。シンフォニーとは合同で、活動のまとめとなる公開CBフォーラムを12月に開催し、受講者の起業プランの発表会と交流会を行います。また丹波市まちづくり部生涯学習センターとも連携し、同センターが実施している地域プロデューサー養成講座の受講者を中心に、実践的な起業への事業計画づくりなど個別相談での協力も行います。若者だけでなく、高齢者や女性のCB起業家を発掘したいと思っています。

一方上記の活動とは別に、丹波地域での社会的起業を促すことを目的とした一連のセミナーが、8月から神戸市で開催される予定です。CS神戸としても受講生向けの丹波ツアーに協力し、定住のためのCB起業を個別相談などで後押ししていきたいと考えています。

CB起業の切り口は福祉、介護、子育て、農業、森林、里山、古民家、田舎暮らし、ツーリズムなど様々です。地域課題へのアプローチの仕方がどのようなものであれ、それに関わる人達の顔が見える形でつながり、地域の資源を活かしながら住民を動かしていく活動が起こり、そして継続していくことが大切です。そのためにはCB起業家だけでなくCB起業を支援する人材を地元で育てていくことが必要です。CS神戸がこれまで培ってきた中間支援の実践ノウハウを伝えることで、丹波に根を張って頑張る人を応援していきたいと思っています。（柳井）

丹波で自然食農家レストラン「三心五観」を起業した藤本傑志さんが6/8に開催した「田植え」と畦道の「能楽」のコラボ体験イベントには、CB起業家を目指す若者も参加。



市民活動推進事業

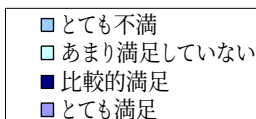
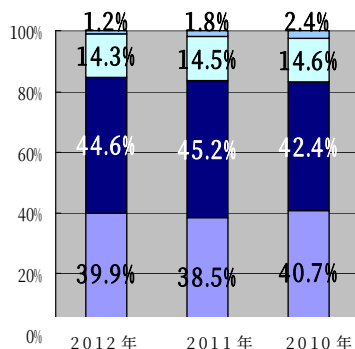
……ここからは、既存事業の報告と計画です。



生きがいしごとサポートセンター（ワラビー）

それぞれの「生きがいしごと」を目指す方々と共に、起業・就業の実現に向けてサポートする生きがいしごとサポートセンター事業を最初に受託してから 13 年。昨年度は、3 年間続いた緊急雇用枠による求人開拓事業が終了となったため、スタッフ数が減少となりました。しかしながら、年間の面接者数は 2,131 名、毎年実施しているアンケートによる満足度調査でも、従来同様の結果となり、質・量ともに維持することができました。（アンケート結果は下記の通りです）

〇：ワラビーを利用した結果



今年度も兵庫県の予算の関係でスタッフ数が減りますが、各個人のスキルアップや学び合い、業務の効率化、情報の共有化をさらに進め、また大勢の方々のご支援をいただくことで、相談者の方々の生きがいしごとの実現に尽力していきたいと思っています。（狩野）



神戸市 NPO 認証支援事業

NPO 法改正に伴い、2012 年 4 月より神戸市に事務所がある NPO 法人を担当する所轄庁は、兵庫県から神戸市に変更となりました。CS 神戸は、神戸市より NPO 法人の設立認証や定款変更等の手続きに関する相談を行う「神戸市 NPO 法人認証相談窓口」事業を受託しました。書類作成に関するアドバイスや確認・助言にとどまることなく、NPO 法人としての基盤整備や事業体制の構築を早期に成し遂げ、組織として自立できることを視野においた支援活動を行ってきました。2012 年度の成果は、NPO 法人認証 20 団体、定款変更 14 団体で、その他様々な NPO 法人立ち上げに関する相談を実施しました。

また、NPO の基礎知識から立ち上げの手順を学ぶ基礎講座を年 2 回開催しました。毎回 20 名を越す参加者となり、事務所いっぱいスペースを確保しながらの実施でしたが、NPO 法人を立ち上げた方をゲストスピーカーとして招き、実体験を語っていただいたのも好評でした。

所轄庁の神戸市とは定期的にミーティングを行い、認証に関する確認や意見交換を行なうことで意思統一を行い、連携体制を強化しています。（狩野）

NPO 設立のための講座風景



ハンズオン・インターンシップ研修事業

三菱重工業（株）神戸造船所の社会貢献活動の一環として支援して頂いている就労体験研修「ハンズオン・インターンシップ」はこの 3 月で 1 年目を終了しました。対象は様々な理由で就職への第一歩を踏み出すことのできない 20 代、30 代の若者（延べ 7 名）。コミュニケーションスキル等の職場や社会に対応できる能力を磨くために、少人数で個性や特性に合わせた細やかな対応を行う体験型の長期研修です。最初は声を出すことも、自分の意見を言うことも苦手な彼らでした。しかしアドバイスしてくれるメンター（伴走者）や多くの人達の支えで、誇りや自信を取り戻し、自分自身を客観的に捉えることや他者の気持ち・立場を理解する力が育まれました。人の役に立つ喜び、仕事をしている実感を身体全体でつかみ取っています。

この春、1 年間休むことなく熱心に参加した研修生の就職が決まりました。2013 年度は継続している研修生の進路先決定を目指します。また、新しい研修生を迎え、サポート体制の強化に取り組めます。（瀬光）



事務所前で障がい者作業所の製品を販売をしている研修生

NPO マネジメントスクール

兵庫県地域づくり活動支援事業として 2011 年度から継続している活動で、マネジメントコース、コンサルテーションコース、オリジナル支援キット開発の 3 プロジェクトを行いました。マネジメントコースは神戸、北播磨、伊丹の 3 ヶ所で実施し、合計 51 名の NPO の方々に受講いただきました。またその中から「研修としてもっとみっちりやりたい！」という 5 団体を対象にコンサルテーションを行い、組織運営をサポートしました。

2012 年度に初めて取組んだのが、「オリジナル支援キット」の開発です。これは、CS 神戸が 8 年にわたって NPO マネジメント研修の軸として使用してきた、SWOT 分析、バランス・スコア・カードの使い方をわかりやすく解説したテキストと、當間克雄氏（兵庫県立大学経営学部教授）の講義 DVD をセットにしたものです。ケーススタディも収録しており、組織分析の方法や事業立案のエッセンスを事例を通じて学ぶことができます。「理解はできたけど…」から「使いこなせる！」に至るための橋渡しとして活用していく予定です。（飛田）



完成したオリジナル支援キット

ネットワーク事業



CSRネットワーク事業

20社へのヒヤリングとネットワーク会議の開催

2012年度は兵庫自治学会の助成を受け、神戸市を中心に20社の地域貢献活動担当者にヒヤリングを実施し、3月5日には、ひょうごボランティアプラザ（兵庫県社会福祉協議会）のご協力を得て、第1回ネットワーク会議を開催しました。

報告書では、①企業の活動内容として、一般分野においては、「資金提供」「人材提供」「商品・施設提供」が、福祉分野においては、「障がい者施設への生産委託」「障がい者施設商品の販売」「障がい者の職場体験の受入」「専用商品の開発」があること。②活動は本業・地元が中心で、目的・成果については、収益・ブランド力・従業員意識の向上について異なる考え方や問題点があること。③課題は、従業員のボランティア意識の啓発や、活動テーマの設定・活動経費の確保・社内体制の整備などであること、④NPOに期待することとしては「情報提供・仲介・広報支援機能」とともに、協働のパートナーとして実力・信頼のさらなる向上を求める声があったこと、等を述べました。

またネットワーク会議には、企業・NPO・行政関係合わせて35名の参加をいただき、CS神戸トータルアドバイザー星野裕志氏（九州大学大学院経済学研究院教授）の基調講演の後、今回の調査報告と4つの活動事例の紹介（企業・NPO各々2団体）を行いました。

今後は両セクター連携に向けて、互いが出会うプラットフォームの構築と、それを基盤とした個々の連携への取組みが必要に思います。2013年度は協働事業のモデル案づくりと、第2回のネットワーク会議を開催する予定です。（岡本）

ネットワーク会議の様子



東北震災支援事業

岩手県大槌町 進む地元団体の共同事業化「オール大槌」

あれから2年3か月が経過、大槌の町にもパワーショベルカーが入り、流された建物の基礎跡を掘り返したり、盛土の準備に取りかかったりなど復興の槌音がやっと響いてきました。2年で撤収せざるを得ない外部支援団体が多い中で、立ち上がった地元団体には、災害復興住宅への移転を見据えた今後の地域活動への方向性を打ち出す意気込みが感じられます。

さわやか福祉財団と共に支援中の「新生おおつち」はじめ「サンガ岩手」「ぐるっと大槌」「おらが大槌」「遠野まごころネット大槌」の5団体は、「オール大槌」として新たなネットワークを形成し、共同事業化に向けた取組みを始めました。

手始めは、大槌固有の「鼻曲がり鮭グッズ」「おおちゃん人形」「華ぼっくりのコサージュ」等、手づくり品の制作販売にかかる共同化です。被災者の閉じこもり防止や小さな収入、生きがいづくりなどを兼ね制作しているこれら製品の受注、発送、領収までの事務作業を、窓口団体（この事業はサンガ岩手）が一括管理しています。布地など全国からの寄贈品もこの仕組みに乗って配分しています。案外、手を組みにくい地元団体がネットワークすることで、効果的な見守りが出来たり、地域包括ケアのまちづくりといった今後の大きなテーマに取り組むための基礎体力が培われることを期待しています。CS神戸ではオール大槌の製品を常時販売し、地元団体に全額を還元しています。応援して下さい♪（中村）



神戸市の方から頂いた布地を
サンガ岩手へ寄贈

HAT神戸地域活性化事業

企業とNPOをつなぐ、新たな地域活性化モデル

2012年度の新規事業のひとつとして、空き店舗とNPOをつなぐ「HAT神戸地域活性化プロジェクト」を行いました。民間企業が抱える空きテナントと、活動拠点を求めるNPOをコーディネート・マッチングすることで、NPOの活動基盤の整備のみならず、周辺地域の発展に寄与できるのでは、という思いからスタートしました。

CS神戸は、当該エリアの地域ニーズを把握すべく、先ず最初に「ふれあいのまちづくり協議会」「地域包括支援センター」「灘区役所」「灘区社会福祉協議会」等にヒヤリングをしました。「どのようなサービスがあれば地元住民のニーズに応えられるか」という観点からの地域調査です。

最終的にはNPO法人実用日本語教育推進協会（通称THANK's）の入居が決定し、活動の軸とされている日本語ボランティアの養成とともに、当該エリアで不足している就学児童向けのサービスとして国際交流イベントを実施することになりました。THANK's主催の「日本語の教え方講座」に地元住民の方が参加されるなど、さっそく交流も始まっているようです。

CS神戸としても初めての試みでしたが、民間所有の空きテナントの公共活用という、新たなモデル事例を創りだすことができました。（飛田）

実用日本語教育推進
協会の新事務所





まちづくり推進事業

J R住吉駅前自転車駐車場（神戸市指定管理事業）

昨年公募審査があり、C S神戸は第3期9年目の活動がスタートしました。C S神戸が運営する駐輪場には2つの役割があります。ひとつは他の株式会社と同じく安全・快適・便利な駐輪場であること（通常業務）、そしてもうひとつはNPOとしての付加価値づくり（地域貢献業務）です。

2012年度、通常業務について、①利用台数は、安定的に推移し、一時使用・定期使用とも前年を上回ることができました。②業務プロセスの改善においては、業務マニュアル・チェックリストの見直し、スローガン・標語の設定、不正使用車両やバイクの定期待ち低減への取り組み、危険箇所の行政への連絡、機械室の雨漏り工事等を実施しました。③利用者満足については、ご意見番の設置と回答の場内掲示、ご意見への具体的な対応、付加サービスの実施（空気入れ貸し出しサービス・虫ゴム交換・修理・雨避けシート無料配布・道案内）、場内一斉清掃、バイクの鍵壊し・自転車サドル盗難への対応等を行いました。そして、④スタッフの育成においては、現場リーダーによる日々の指導を地道に行い、接遇研修をコープこうべのご協力を頂いて実施しました。

一方地域貢献業務については、駐輪場外の放置車両数の低減への取り組み、地域の高齢者の継続雇用（平均年齢71.8歳）、障がい者の再雇用と育成、障がい者有償ボランティアの受け入れ（スタッフと一緒にめいわく駐輪指導の巡回・落ち葉清掃ボランティア）、警察の交通安全運動への参加、トライやるウィークの受け入れ、認知症サポーター施設の登録、地域活動団体のチラシ掲示、緑化の推進、NPO指定管理者ネットワーク会議への参加、子ども110番の継続を行いました。これに関連して2013年6月1日（土）には、J R住吉駅を中心に、「めいわく駐輪&盗難防止の啓発キャンペーン」を開催しました。参加者は駐輪場スタッフの他、近隣の商業ビルであるキララ住吉、神戸市東部建設事務所、東灘区まちづくり課、東灘警察署、そして障がい者施設、大学生の方々と、総勢29名。路上に自転車を放置しないように、また盗難防止のために2重ロックをしていただくように、チラシ配りや放置車両へのマナー札の貼付を行いました。（岡本）

第3期目がスタートしました

めいわく駐輪・盗難防止の啓発キャンペーンの様子



東灘区区民センター小ホール（神戸市指定管理事業）

「市民がつながる」活動を目指しています

区民センター小ホールでは、少しでも多くの地域課題に取り組むため、ひとりでも多くの方に「声かけ」を行い、垣根を越えた市民のつながりのあるサービスを提供することを心がけてきました。そのおかげで、ホールスペースは95%の高い利用率を継続しており、他の会議室や和室も昨年より利用率が増えました（会議室：60%、和室：78%）

自主事業については昨年に引き続き、市民の方の豊かな教養や文化、アイディア、技術、体力を近隣の皆さんに分ち合ってもらく「ひがしなだ区民カレッジ」を、ワンコイン（500円）の参加費にて開催しました。多くの方に支えていただいた結果、バラエティー豊かで盛りだくさんな講座を実施することができ、これまでの講座開催数は35回を数えることになりました。

2012年10月には、知的障がいのある人と即興演奏者による「音遊びの会」があり、両者のコラボレーションから、新しい表現や芸術価値を生み出すイベントを実施しました。参加者は多様な価値観を学ぶ良い機会になりました。

毎年行っている震災メモリアルイベント「1.17は忘れない、うおざきフェスタ」を1月19日に開催しました。追悼音楽イベントや防災学習を行い、「絆、支え合う心、やさしさ、思いやり」の大切さをより強いものにすることができました。また当日は1.17と3.11をつなぐ催しとして、C S神戸がさわやか福祉財団と共にサポートしている岩手県大槌町から、約10

うおざきフェスタでは、大槌町の方が震災の現状をお話されました



名のゲストの方々をお迎えしました。現地の被災状況の報告や手作り品「華ぼっくり」の販売を行い、阪神と東北の復興に思いを馳せる一日となりました。

2013年度の活動としては、災害時の対応を親子で考え、災害時の体験学習を行う「魚崎親子防災教室」を予定しています。特に若い世代の方々に参加を呼びかけたいと思っています。この催しは、同じ会館内にある魚崎児童館（神戸市社会福祉協議会が運営）、並びに地域団体である魚崎町防災福祉コミュニティとの協働事業です。地域の課題を複数のセクターで取り組む活動であり、C S神戸としては新たな試みです。災害時の命の守り方や対応の仕方をクイズ形式で学んだり、地域備蓄拠点に保管されている非常食と同じものを試食したり、また家族の連絡網や非常時持ち出し品の確認などを行う計画です。（兵頭）

福祉推進事業

CS神戸は「介護保険地域密着型サービス外部評価」と「介護サービス情報公表制度」の調査機関として認定を受けて活動しています。

介護保険地域密着型サービス外部評価事業

2012年度に新たに参入したため、上期はまさに評価対象先を必死で探す毎日でした。下期に入ってようやく数件の評価依頼があり、1月、2月から年度末は忙しく過ぎました。結果としてグループホームを7件、小規模多機能型居宅介護事業所を12件、合計19件の地域密着型事業所を評価することができました。またこの間、評価員自身も講習会等への自主的な参加や内部検討会を通じて、切磋琢磨に努めました。2013年度は具体的な目標として、①利用者の家族からのアンケート結果を有効に活用し、前年度と比較します。②評価結果を100字程度に簡潔に整理し、事業者自らが目標を作成することを支援します。CS神戸の報告書では、管理者の悩みや利用者との会話をオブズマン的な視点からまとめます。③近隣の事業所の運営推進会議に参加して現場を見る機会をつくり、評価に活用します。これらの点は、おそらく他評価機関にはないCS神戸独自の取り組みです。

評価終了後、ある事業所の管理者からいただいたメールをご紹介します。『私たちが手探りの中で行ってきた様々な事を言葉にしてくださったことに感謝しております。どの言葉も、あたたかく丁寧で、読ませていただいている途中でこれまでの一年が思い出されてきて感極まってしまいました』。こんな思いが私たちを勇気づけてくれます。2013年度は昨年以上に厳しい年となりそうですが、志を高く持ち、介護サービスの質の向上に貢献したいと考えております。

介護サービス情報公表事業

年1回事業所情報を公表することが、全国の介護保険サービス事業所に義務化されています。厚労省は、この情報の正確性を担保するのは訪問調査（任意）であるとしています。兵庫県では、この制度を「ひょうご介護サービス情報公表活用制度」として新しく発足させました。ここでは従来と異なり、①利用者の希望に沿った介護サービスが提供されているか、②介護サービスの向上にどのように取り組んでいるか、が重要視され、③事業所の特色・提案等々を聴きとって報告書とすること、が特徴になっています。そしてこれが兵庫県のホームページに掲載されることで、利用者は事業所の選択がし易くなります。事業所にとっては広報であり、また同時に調査機関(CS神戸)の質も問われることにもなります。軌道に乗るには少し時間がかかりますが、将来が期待できる兵庫県方式です。(小林)



外部評価検討会の様子



市民活動サポート基金

2012年度 第2回目は2団体に交付しました

3月19日(火)、2012年度第2回目の選考委員会を開催し、以下の2団体への交付が決定されました。1996年度からこれまでに助成金交付を行った団体は、延べ110団体、総額35,796,000円となりました。(飛田)

NPO 法人介護コミュニティ咲咲館（西宮市）

事業名：男性介護者電話相談事業

代表者：理事長 山田公平

金額：200,000円

＜申請内容＞

咲咲館は男性介護者同士が互いの悩み、不安、そして喜び、楽しさを共有し、「介護者は決して独りではないよ」というメッセージを発信していきたいと、2011年8月に活動を開始しました。週3回集いの場を開催していますが、家を空けられない介護者のために、電話相談事業を立ち上げることにしました。男性介護経験者がフリーダイヤルで電話を受け、少しでも男性介護者の助けになればと思っています。助成金は、フリーダイヤルの設置費や広告費に充当します。



NPO 法人あっとオーティズム（芦屋市）

事業名：世界自閉症啓発活動「ライト・イット・アップブルー in JAPAN」事業

代表者：理事長 佐伯比呂美

金額：150,000円

＜申請内容＞

自閉症(オーティズム)児・者を取り巻く環境を改善するため、2011年10月に団体を設立。

2008年に「世界自閉症啓発デー」が定められて以降、各地のランドマーク等を青い光で照らす「ライト・イット・アップブルー」という取組みが世界で広がり、日本では2012年から当法人が中心となって行っています。神戸ポートタワーや通天閣なども参加しています。この活動を通じて、自閉症への理解が広がることを願っています。助成金は広告費や通信費に充当します。



新スタッフ紹介



柳井 俊郎 (生きがいごとサポートセンター全県展開事業)



一昨年長年勤めた企業を退職後、地元に戻り母親と障がいを持つ姉と暮らし始め、いつの間にか私も含め皆、年を取ってしまったと実感しました。誰か周りの人の助けが必要だと感じ、地域の中での助け

合いや社会福祉に関わる活動に関心を持ちはじめました。私だけの話ではなく、誰もが、自分の暮らすまちで、お年寄りが幸せな老後を過ごせ、障がいを持つ方が自立して活動し、子育てで悩むママさんたちが助け合って生活できるような、「みんなが助け合ってともにしあわせに暮らせるまち」になる、そんなまちづくりを応援する仕事あればと思っていました。このたび縁があってCS神戸の活動を中村理事長に教えて頂く機会があり、ここでそんなチャンスがあると考え飛び込むことにしました。年は取りましたが、まだまだ自身の“志”を形にできる可能性を信じて進んで行きたいと思っています。

竹内 志津香 (生きがいごとサポートセンター相談員)



4月より週2回ワラビーで就職支援を担当しています。就職活動は、新しい仕事に向けて自分自身の価値観や生活を合わせる必要性に迫られます。そんなストレスが多い時に、相談できる場所がある

ことは随分支えになると思います。ワラビーの一員として、相談に来られた方が笑顔になれるような「生きがいごと」をサポートしていきたいと思っています。

山内 一夫 (東灘区民センター小ホール)



昭和22年生まれの団塊真っ只中の世代です。もの心が付いた頃より、父からお前は一生競争だ、高校も大学も、就職も、嫁はんもらうのも競争だ、と言われて育ちました。確かにそう

でしたが、今は落ち着いて生活しているのではないのでしょうか？

とにかく気が多く、なんにでもすぐに凝り、すぐに醒めてしまっていますが、今は写真に凝っています。花ともうじき2歳の孫娘を撮るのが楽しいです。我が家は孫の写真で埋まり、かみさんと二人でいつも写真に話しかけています。

縁あってCS神戸の一員となり、大好きな神戸の地域社会の発展に尽くせればと考えていますので、よろしくお願いいたします。

イベント告知♪

～兵庫県立大学ボランティアサークル Bridge と共催♪～



CS神戸では『つなごう神戸』というWEBサイトの事務局を担当しています。『つなごう神戸』は、地域活動をしているNPOや市民団体、大学、企業や行政と、それに参加・協力・利用したい団体・個人との橋渡しをお手伝いして「つなげる」ポータルサイトです。

いつもは画面上でしか知ることができない団体・個人の方々に直接逢える機会を設けようと、初イベントを開催する運びとなりました。もちろん、未登録の団体・個人の方々に『つなごう神戸』を知っていただく場でもあります。

みな様、ぜひ！お誘いあわせの上、お越しくださいませ。

※参加は無料です。

2013年7月6日(土) 13:00～

市営地下鉄学園都市駅ビル UNITY セミナー室

詳細は、下記 URL 特設サイトでご確認下さい。

☆つなごう神戸 JCT 特設サイト

<http://event.sbcb-tgkobe.org/>

会費・寄付・寄贈をいただき、 誠にありがとうございました



(期間 2013 年 1/1～5/31、順不同・敬称略)

【会費】 光武 茂、津田久雄、中田久美子、太美 京、稲田 薫、端 信行、木幡幸雄、山口一史、塩路晃二郎、藤浦 剛、片岡 治、黄田昭子、中村 聡、重政和洋、中村大知、樋口孝子、畑中 進、岸 千尋、井上 怜、峯村しげ子、浅田哲生、山本智史、大西洋助、金芳外城雄、檜森絹代、弓削 一、岩崎信彦、岡島貞雄、国枝哲男、松下忠義、足立 勝、福島正次、福永敦雄、野々村公子、古川健二、中山照彦、立田英雄、中村順子、星野裕志、北村加代子、広井かほる、大和三重、小室邦夫、白井隆夫、浅山日出夫、當間克雄、村上義弘、狩野仁未、NPO法人わだち、NPO法人神戸西助け合いネットワーク、ヒューマンスキル研究所、NPO法人ジソジャークラブ、社会福祉法人大阪ボランティア協会、

【寄付】 中村順子、中山照彦、狩野仁未、星野裕志、飛田敦子、村上義弘、家城裕之、三好幸代、大西佐和子、坂本 登

2013 年度の会員継続をお願いいたします！

市民活動を共に支えて下さる賛助会員（個人・団体）の方々を募集しております。

【会 費】 個人会員 3,000円／年、団体会員 10,000円／年

【振込先】 名義 NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸
郵便振替 00950-2-144205

編 集 後 記

いろいろなところで連携が進んでいます。「井戸の中の蛙」ではなく、外部の視点を学び、自らの活動分野の拡大や質の向上につながるチャンスですが、ややもすれば連携することが目的となりがちです。どのような課題を解決するのか、互いのメリットは何かを明確にすることが大切に思います。(O)